

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)									
指定管理者名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト						法人番号	6100005002075		
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副						
構成施設	3091	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
施設分類	06	保健福祉2型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制	
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、お昼寝室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ(車いす対応)、受付、事務室									
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進を資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。									
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。									
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤遊びに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧ホームスタート事業 ⑨利用者支援事業 ⑩その他子育て支援に関すること									

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト				当該指定管理者の 指定回数	4 回
指定期間	令和4年4月1日	～	令和9年3月31日	5年	当該指定管理者の 管理運営開始日	平成18年4月1日
指定 管理 者の 健 全 性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、 その内容等を記入)					4

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)		利用区分等	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	対前年比	評価
		利用者数	人	23,819	40,912	40,741	37,312	92%	
		(内 出張広場参加者)	人	572	798	770	954	124%	
		新規登録乳児数	人	737	1,736	1,539	1,227	80%	
		専門家相談人数	人	321	363	423	313	74%	
		子育てコンシェルジュ相談数	件	3,299	2,867	2,295	1,776	77%	
		ホームスタート訪問家庭数	人	96	95	90	64	71%	
		(特記事項) ・広場の床のフローリングが経年劣化によりささくれが目立っていたため、全体の約三分の一を修繕を行った。その間1週間 8/31～9/6まで休館となった。							
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	① 子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ② 子育てに関する相談 ③ 子育てグループ等の育成、 ④ 子育てに関する情報の提供 ⑤ あそびに関する指導及び助言 ⑥ 子育て情報誌の発行 ⑦ 子育て講座、イベントの開催 ⑧ ホームスタート事業 ⑨ 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ) ⑩ その他子育て支援に関すること							
	自主事業	・講座の開催 ①ながのわくわくパパ講座 ②ノーバディズパーフェクト講座 ・地域と連携した広場の開催 ①ゆりかごの会 ②サンサン広場(権堂イーストプラザ) ③アップルキッズ(浅川社会福祉協議会) ・スタッフ研修							
サービス維持・向上の取組み (広報等)		・広場から遠い地域や多胎児等で来館しづらい保護者の要望に応え出張広場を保健センター等と共催で開催している。そこへ子育てコンシェルジュを派遣し、気軽に子育ての悩みなどを相談できるように体制を整えた。 ・兼ねてより懸案だったママ世代の利用が多いInstagramを開設し、広報を充実させた。さらにホームページを常時更新し、ブログ等で最新情報を掲載することで情報発信に努めた。また、週刊ながのの「子どもも親もいきいきと」のコーナーを担当し、子育て支援の情報を月1回掲載した。							

4

3 利用者評価

区分		内容		評価
利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート		4
	(2) 調査、会議等の内容			
	・「じゃん・けん・ぼん」利用者アンケート:2月に実施(対象100人) ・「ホームスタート事業」利用者アンケート:利用の前後にアンケート調査し、充足度を調査(対象家庭数 49家庭) ・講座、イベント等でのアンケート:終了時に参加者へアンケート調査。更に1人ひとりから感想や要望等を聞き取り(ねんねの会、年齢別おしゃべり会、ウェルカム交流会、子育て講座、ながのわくわくパパ講座など) ・施設内に「利用者の声のコーナー」(投書箱)を設置し、利用者の声を把握するようにした。			
	(3) 調査、会議等の結果			
	【こども広場】 ・利用者アンケートの対応等については、こども広場情報誌「じゃん・けん・ぼん」に掲載した。 ・講座等のアンケートについては、次回の講座運営に生かした。 【ホームスタート】 ・運営の参考やニーズの参考として利用			
利用者からの評価・苦情等	(1) 良好とする評価			
	【こども広場】 ・「温かく声をかけてくれる」、「イベントを通じて親子の触れ合いができる」、「相談に乗ってもらい気にかけてもらったことが子育ての励みになった」等、99%がスタッフの対応に満足と回答 ・「長い時間開いていて、土日でも開いているので大変有難い」「広くて安全で室温も管理されていて良い」など施設についても評価された 【ホームスタート】 ・ニーズの充足度がすべて100%だった。特に多いニーズは「孤立感の解消」「家事の上達」であった。産前家庭での特徴として「上の子の成長・発達を促す機会を作る」が一番で、充足度100%だった。			
	(2) 苦情・改善等の要望事項			
	【こども広場】 ・開館時間がもう少し早くなると有難い ・園児が大人数で利用している時があり、小さい子連れで利用しづらい時がある。 ・絵の具遊びや工作、新聞紙プールのような家ではなかなかできないようなことをやって欲しい			
	《対応措置》 ・開館時間については、令和8年度は30分前倒しで試行的に実施。 ・園児は主に土日等の利用が多いので、長期休みや土日祝日等に会議室を「赤ちゃんのお部屋」として開放し、0歳児の親子が安心して過ごせる環境を整えた。 ・親子で参加できるイベントや講座を検討する。			

4 事業収支

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和7年度)				市の収支				評価		
		年度計画額		収支実績額			令和7年度決算			令和6年度決算(前年度)	
		項目	金額	項目	金額		項目	金額		項目	金額
	指定事業	利用料金		利用料金		歳入	使用料			使用料	
指定管理料		28,571,000	指定管理料	28,570,900	雑(納付金)			雑(納付金)			
委託料		386,000	委託料	395,289	行政財産目的外使用料			行政財産目的外使用料			
販売収入等			販売収入等		貸付料			貸付料			
その他収入		100,000	その他収入	104,761	その他		12,858,000	その他	11,790,000		
講座参加費		30,000	講座参加費	33,800	利益配分			利益配分			
広告料		100,000	広告料	5,500							
収入計		29,187,000	収入計	29,110,250	計	12,858,000	計	11,790,000			
人件費		21,040,000	人件費	22,210,469	歳出	指定管理料	28,570,900	指定管理料	28,571,000		
設備管理費		100,000	設備管理費	0		委託料	395,289	委託料	401,034		
備品購入費		300,000	備品購入費	122,000		需用費		需用費			
修繕費		300,000	修繕費			役務費		役務費			
光熱水費			光熱水費			使用料・賃借料	438,772	使用料・賃借料	455,588		
事業費		4,525,000	事業費	3,554,375		修繕費		修繕費			
事務経費		822,000	事務経費	1,058,336		工事請負費	699,600	工事請負費			
本社経費		700,000	本社経費	700,000	備品購入費		備品購入費				
その他		1,400,000	その他	1,345,900	その他		その他				
		利益配分									
支出計	29,187,000	支出計	28,991,080	計	30,104,561	計	29,427,622				
指定事業損益	0	指定事業損益	119,170								
利益配分を除く 指定事業損益	0	利益配分を除く 指定事業損益	119,170								
自主事業	収入		収入						38,150		
	支出		支出						29,306		
	自主事業損益	0	自主事業損益						8,844		
損益	0		128,014	差引	-17,246,561		-17,637,622				
人件費比率【人件費(賃金等)／令和7年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)									76.6%		
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由											

5 管理運営全般 ※ すべて ☒ で、「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分		確認内容	チェック欄	評価	
管理運営全般	職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	☒	4	
		配置実績 (うち市内雇用職員数)			運営責任者1人(1)、副責任者1人(1)、チーフスタッフ3人(3)、スタッフ10人(10)、コンサルタント1人(1) 合計 16人(16)
		2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか			
		3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか			
		4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか			
	平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか	☒		
		2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか			
	経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか	☒		
		2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか			
	施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に行われたか	☒		
2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか					
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか	☒			
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか				

No. 21

危機管理体制	区分	確認内容	チェック欄	評価
	安全対策	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☒	3
		2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか		
		3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☒	
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	☒	
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
	緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☒	
		2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		

7 地域連携

	地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。		評価
地域連携	協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	4
	・地元商店街主催行事や地元NPO等の行事等への積極的参加(権堂七夕まつり、ゆめ灯り絵展、地域まるごとキャンパス等) 地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座 ハンドマッサージ等) ・地域のシニア層との交流(折り紙教室 等) ・教育機関との連携事業(長野県立大学、清泉大学・短期大学部、中学校、高等学校、長野看護専門学校) ・地元商店街からの物品購入 ・スタッフは全て市内雇用	・長野市教育委員会：長野市キャリア教育推進事業「赤ちゃんだっこ」への協力 ・防災講座「長野市緊急時における子ども支援ネットワーク」と共催 ・足育講座：株式会社シューマートのシューフィッターを招いて、初めての靴選びについての講話や足サイズ計測等を実施。靴選びに迷う親向けの話や、集中力アップや運動能力の向上、ケガの防止になること等を学んだ。	

【総合評価】

総合評価

評価項目	評価	得点
指定管理者の健全性	4	8
施設の有効活用	4	16
利用者評価	4	16
事業収支	3	6
管理運営全般	4	8
危機管理体制	3	12
地域連携	4	8

総合評価

合計得点

74

指定管理者の健全性

施設の有効活用

利用者評価

事業収支

管理運営全般

危機管理体制

地域連携

基準値

評価理由	・「施設の有効活用」について、出張広場参加者数が増えており、様々な理由により来館しづらい保護者への支援も行ったことで、サービス向上を図ったことから、「4」とした。 ・「利用者評価」について、非常に高い満足度・充足度を得ていることから「4」とした。 ・「管理運営全般」について、高い専門性を備えた職員を配置し、利用者に寄り添った対応ができている点、工事期間を利用した視察や定期的な研修により、職員の資質向上や業務改善を図った点から「4」とした。 ・「地域連携」について、地元事業者や地域住民との講座・交流事業を多く実施した点、多くの教育機関と連携事業を行った点から「4」とした。
------	--

	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
取組み・改善案等 (施設所管課)	・新規登録乳幼児数を増やし、子育て家庭の孤立防止を図る。 ・保育・幼稚園課及び保育コーディネーターとの連携を強化し、制度の最新情報を共有することで子育てコンシェルジュ等の専門性を高める。 ・土日の混雑時の安全対策を図る。	・近隣市町村の大型商業施設の開業や、乳幼児人口の減少等の状況の中、一定の登録者数を維持できた。 ・こども広場会議で情報共有したほか、私立園向け入所説明会に子育てコンシェルジュも参加し最新の制度情報を共有することで課との連携を図った。 ・土日等の混雑時には乳児専用の部屋を開放することで、安全対策を図った。	

次年度の目標・ 取り組み等 (施設所管課)	・共働きの世帯のため、土日祝日の子育て支援を充実させる。 ・Instagram等を活用した広報を行い、利用者の確保を図る。 ・引き続き、保育・幼稚園課及び保育コンシェルジュと連携し、子育てコンシェルジュの専門性を高める。また、各専門機関との連携も強化し、適切な支援を行えるようにする。	
--------------------------------------	--	--

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

◎共働きの親子に向けての支援:土日にしか来ることができない親子に向けて、子育て支援の充実を図った。
 ・「赤ちゃんのお部屋」:休日には兄弟関係で幼児の来館も多く、0歳児を持つ親からは「動きが違うので心配」との声があった。そこで、第1会議室を開放し「赤ちゃんのお部屋」として0歳児が来館し安心して利用しやすい環境を整えた。
 ・「赤ちゃんババママのハビネスアワー」:育児と家事と仕事の両立で忙しいママに楽器の生演奏でリラックスタイムを楽しんでもらい、その間ババには赤ちゃんとおベビーマッサージでふれあいの時間を持ってもらうイベントを実施。奏者2人も子育て中で、お互いに気持ちをシェアしあった。
 ・「パパ講座スペシャル」:パパならではの遊びの提案や栄養士による料理の講習で、主体的にパパも子育てに関われるように支援した。受講者がパパ達の自主サークルである「ながのわくわくパパ講座」への参加につながった。

◎環境整備

・館内の掲示物について、古いものは作成しなおしたり、チラシコーナーを項目ごとに場所を移すなど、一目見て情報が分かりやすいように配置した。また、壁面飾りなどを工夫し、ビル内ではあるが季節感が感じられるように設置した。

② 業務の効率化に対する取組み

・数年来の懸案であったInstagramを始めた。イベントの参加者からは、「Instagramを見て来た」との声も多く聞かれ、効果が出ていると思われる。Instagramの原稿はCanvaを利用して製作し、効率的に見栄えの良い記事を投稿することができた。
 ・利用者がチラシを写メしていくことが増えているので、館内のチラシも目につきやすくカラフルなものを製作し掲示した。持ち帰り用には、A5版の小さいサイズを用意し受付に設置した。
 ・床の改修工事の期間に視察研修を行い、そこから生まれた改善案を「パワーアップ大作戦」としてスタッフ間で共有し、より良い広場、また来たくするような広場になるよう、プロジェクトチームを作り検討した。その結果、土日祝日等に0歳児用のお部屋「赤ちゃんのお部屋」を設置することなど、業務の改善につながった。
 ・子育てコンシェルジュの相談も多岐にわたり、様々な専門機関へつなげていく必要も出てきている。他の支援機関との連携を深め、より親子に寄り添った支援になるよう努めている。特に地域の保健センターの母子保健コーディネーターとも連携が取れるようになり、より一層親子支援につながっている。
 ・「先生おしえて」等専門家による講座の講師を法人関係者に依頼し実施。また、子育て講座にはスタッフの資格、JPIC読書アドバイザー、NP認定ファシリテーター2名等を活用し、謝金など経費の削減に努めた。また、折り紙教室当講座はボランティアと連携し実施。年間493人の協力があつた。

③ その他

・床の改修工事で休館の1週間、スタッフには視察研修ということで、近隣の子育て支援施設に行き研修させていただいた。市内では、「善光寺保育園地域子育て支援センター」「善光寺大本願乳児院地域子育て支援 こっこ広場」「柳町保育園子育て支援センター」「子育て支援センター ぼらりす」「フレンド保育園支援センター 絵本ノルル処」「篠ノ井こども広場 このゆびとまれ」の6か所、また市外では「須坂市子育て支援センター bota」「小布施町 エンゼルランドセンター」「中野市子育て支援拠点施設 HBRIC」の3か所へ1か所4～6人程度で訪問。施設の様子を見せていただいたり、各施設の特徴や工夫している点等を聞き、様々な視点で研修した。事後に全体で報告会を行い、情報を共有し、これからの当広場での支援について考える良い機会となった。
 ・令和8年度の休館日・開館時間の変更に伴い、館内のリニューアルを図った。開館以来使い続けて古くなったおもちゃを交換したり、館内のゾーニングを変更したりすることで、来館者に「変わった!!」と感じてもらえるように工夫した。それにより子どもの年齢に合わせた利用場所の分散につながり、利用しやすいという声が多く聞かれている。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

・こどもの声を反映させていく広場へ
 子どもの権利条例が制定され、こども一人ひとりのウェルビーイングが求められている。スタッフそれぞれが保護者の声はもちろん、まだ話すことができないこどもの声も感じ取る力を醸成し、それを広場の運営に生かしていくことで、また来たいと思われる広場になるよう工夫する。
 ・安心安全な広場
 いつ来ても広いフロアで安心して遊べる環境を整える。衛生管理はもちろん、遊具等の破損などにも気を付けて対応したい。また、情報過多な現代でインターネットでは得られない生の情報や声を伝えていくことを大切にしていきたい。
 ・ボランティアの活用
 広場では、多くのボランティアに活躍していただき、地域での子育てに寄与していただいている。ホームスタートのホームビジターもボランティアとして活動していただいているが、ここのところ希望者が少ない状況が続いている。訪問活動に支障をきたさないようボランティア人材の掘り起こしを行いたい。

(3) 総合評価 評価基準
 【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり
 【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

・少子化が進行している現状で、年々来館者数が減少してきているが、アンケート結果を見ると、利用者の満足度は高く、特にスタッフの対応には99%満足という結果が出ている。また、利用回数も4回以上が86%、月に数回以上の利用者が69%とリピーターが多い。
 ・開設以来、木のおもちゃなど天然素材を使ったおもちゃを多用してきた。経年劣化により古くなってきたおもちゃを交換し、設置したところ「木の感触や香りなど普段の生活の中では感じるができない。家には無いおもちゃでたくさん遊べてうれしい」と利用者から好評だった。木製品は、丁寧に使わないと木目から壊れやすいなど、周知しながら、思い思いに遊んでもらっている。
 ・より良い支援を行うためには、スタッフのブラッシュアップが大切になる。スタッフミーティングの際には、毎回外部講師を招くなどして、今必要とされている知識の習得に力を入れた。さらに、子育て親子のニーズに答えられるよう、スタッフは常に情報を収集し、今何が求められているかを検証し、普段の活動に生かしている。
 ・子育てコンシェルジュが広場の身近なところで相談に応じることで、子育ての不安感や孤独感の解消になっている。またこども館等に出向き、コンシェルジュの持つ専門性を生かして広場と同じように相談にのっている。

② 次年度以降の取組み

・広報の充実
 令和8年度は、試行的に毎週水曜日定休、開館時間も30分前倒しとなる。来館者への周知不足にならないようにする。また、それによるサービスの低下や不評が起きないように支援内容を見直し対応する。こども広場への来館人数が年々減ってきている現状を踏まえ、広場を知らない親子がいないようInstagram等を利用し周知し、子育て中の親子に情報が届くよう広報に力を入れる。特にはじめでのお出掛けの場所として認知されるよう、0歳児親子に対する広報をより充実させる。
 ・子育てが楽しいと思える親を増やす
 共働きの親が年々増えている現状では、子どもの入園するまでの期間が短くなっているが、子育てへの不安感や負担を感じている親が増えてきている現状が見える。そのような親が少しでも減るように、来館した親子には、広場の利用の中で子育てが楽しいと持ってもらえるように、スタッフが共育のパートナーとなり関わっていく。また、身近な相談相手として信頼関係を築くようにする。